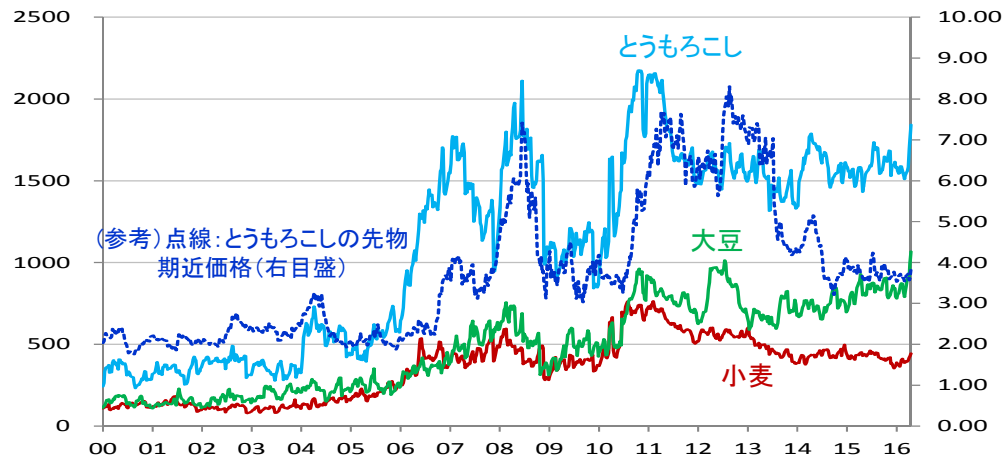


Ⅱ－２（参考） 穀物市場における投機家による先物取引の推移

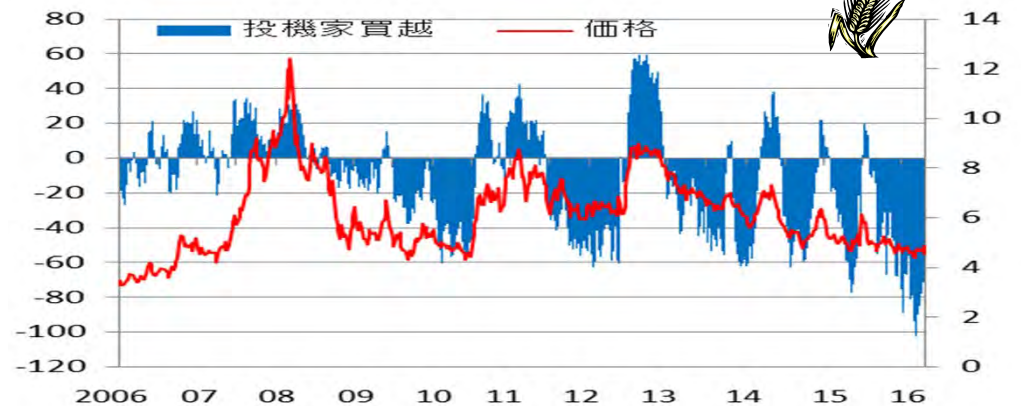
- シカゴ商品取引所（CBOT）における穀物等先物の投機家の取引総枚数は、近年おおむね横ばいで推移。
- 現在のところ、穀物価格は小幅な動きで推移。投機家による売買枚数は直近で、小麦が売越し、とうもろこしが買越しから売越しに、大豆が買越しとなっている。

【図１】 投機家の穀物等の取引総枚数（注）の推移（CBOT）
（千枚） （ドル／ブッシェル）



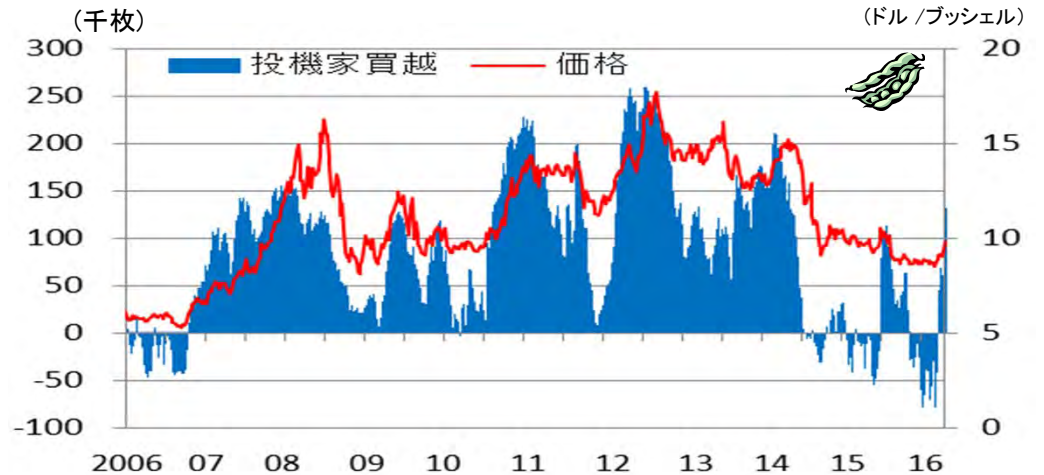
資料：US.CFTC「Futures-and-Options Combined Reports」により作成
注：取引総枚数は、投資家（NonComm）による先物の買い枚数、売り枚数の合計である。

【図２】 投機家の買越し枚数と先物期近価格の推移（小麦）
（千枚） （ドル／ブッシェル）



資料：US.CFTC「Futures Only Reports」、IGC「Futures Prices」により2006年1月第3週～2016年3月第3週までの毎週火曜日の数値で作成。図3及び図4も同じ。

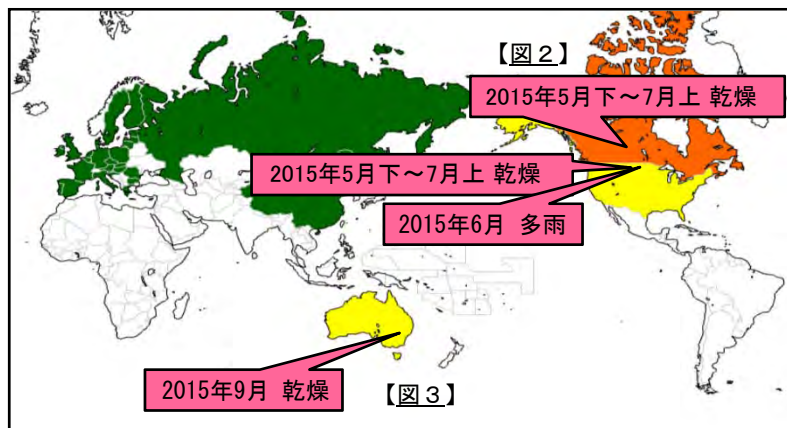
【図３】 投機家の買越し枚数と先物期近価格の推移（とうもろこし） 【図４】 投機家の買越し枚数と先物期近価格の推移（大豆）



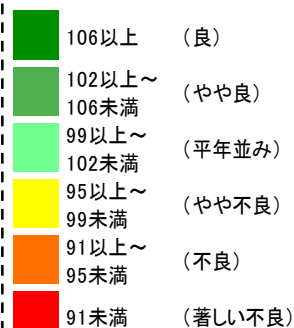
Ⅱ-3-(1) 小麦の作柄見通し(単収過去5か年平均との対比)と気象の影響

2015/16年度(2016年4月時点)の【小麦】の世界全体の作柄見通しについては、やや良の見込み。主要生産国を見ると、EU、中国及びロシアは良、米国及び豪州はやや不良、カナダは不良の見込み。なお、世界全体の生産量を見ると7億33百万トンで、前年度に比べ7.7百万トン(1.1%)増加する見込み。

【図1】小麦の作柄



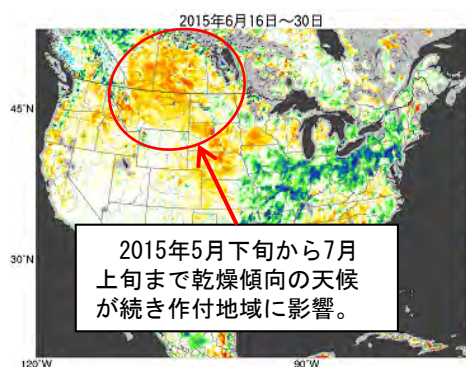
単収の過去5年平均との対比



資料：米国農務省「P S & D」(2016.4)を基に農林水産省にて作成

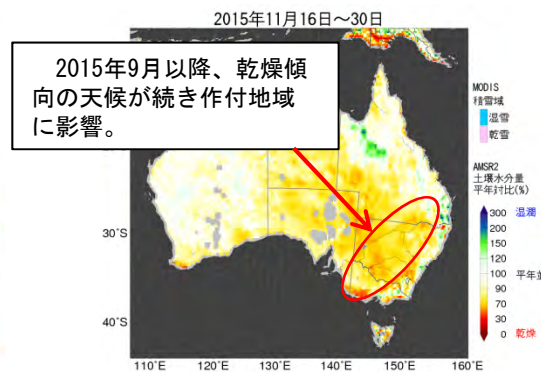
注：主要生産国は、各品目別に生産量の過去3年平均の上位6カ国を対象(2015年5月時点)。作柄概況は過去5か年間の単収の平均に対する2015/16年度の単収(見込み)の比較により区分。なお、EU(欧州連合)の加盟国(28か国)については、EUとして一括区分。

【図2】北米の乾燥状況(図1の参考) 【図3】豪州の乾燥状況(図1の参考)



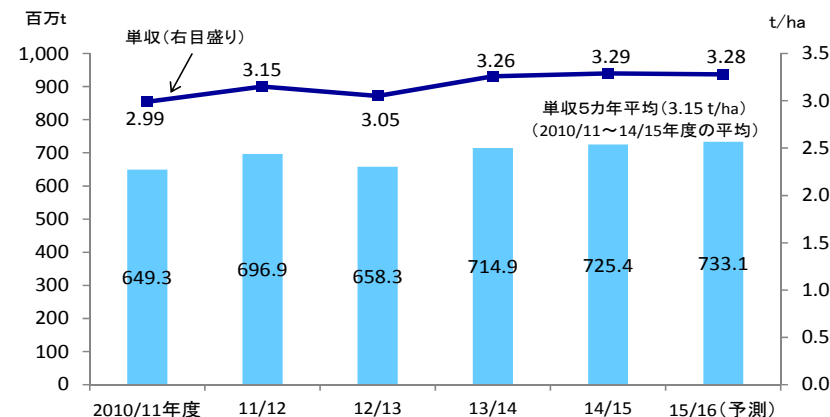
注：黄色～赤になるほど平年値(2002年7月～2011年6月)と比べ乾燥していることを表す。

資料：JAXA提供「JAXA Satellite Monitoring of Agrometeorological Information (JASMAI)農業気象情報衛星モニタリング」を基に農林水産省で作成。



注：黄色～赤になるほど平年値(2002年7月～2011年6月)と比べ乾燥していることを表す。

【図4】世界の小麦の生産量の推移



資料：米国農務省「P S & D」(2016.4)を基に農林水産省にて作成

【参考】小麦生産主要国別生産量(2015/16年度予測値)

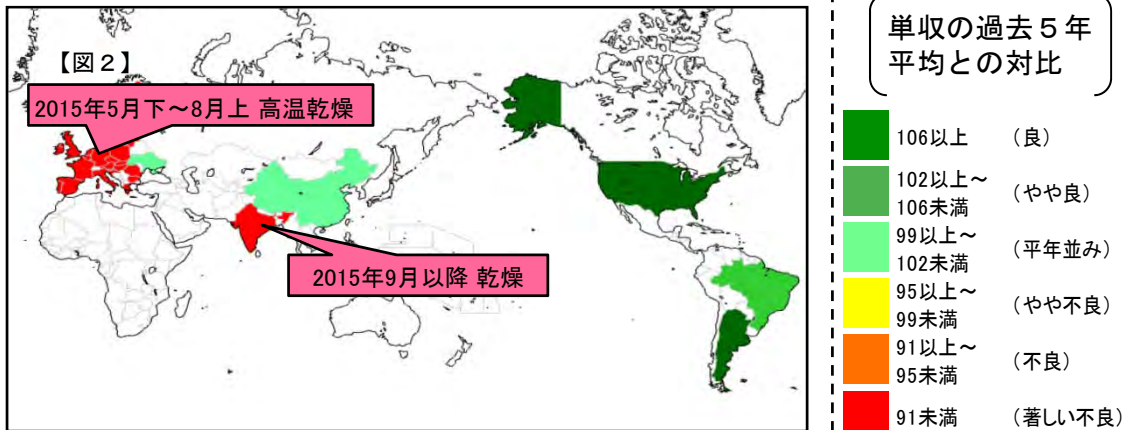
国名	生産量 百万トン	対前年度 増減率 %	生産量 シェア %	単収 t/ha	対単収5か 年平均比 %
世界計	733.1	1.1	100.0	3.28	104.1
EU	160.0	2.0	21.8	5.98	109.8
中国	130.2	3.2	17.8	5.39	108.3
ロシア	61.0	3.3	8.3	2.39	111.9
米国	55.8	1.3	7.6	2.93	96.1
カナダ	27.6	△6.2	3.8	2.88	94.0
豪州	24.5	6.2	3.3	1.92	97.5

資料：米国農務省「P S & D」(2016.4)を基に農林水産省にて作成
注：EU(欧州連合)は28加盟国をEUとして一括区分。

Ⅱ-3-(2) とうもろこしの作柄見通し(単収過去5か年平均との対比)と気象の影響

2015/16年度(2016年4月時点)の【とうもろこし】の世界全体の作柄見通しについては、やや良の見込み。主要生産国を見ると、米国及びアルゼンチンは良、ブラジルはやや良、中国及びウクライナは平年並み、EU及びインドは著しい不良の見込み。なお、世界全体の生産量を見ると9億72百万トンで、前年度に比べ40.7百万トン(△4.0%)減少する見込み。

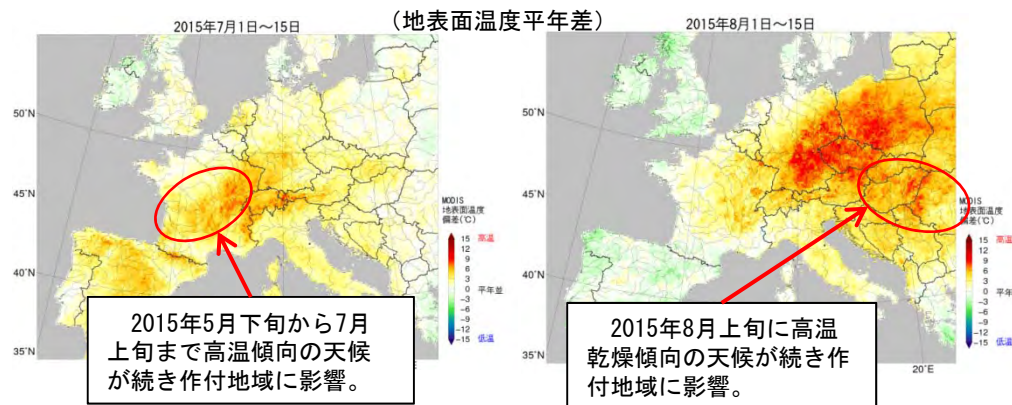
【図1】とうもろこしの作柄



資料：米国農務省「P S & D」(2016.4)を基に農林水産省にて作成

注：主要生産国は、各品目別に生産量の過去3年平均の上位7カ国を対象(2015年5月時点)。作柄概況は過去5か年間の単収の平均に対する2015/16年度の単収(見込み)の比較により区分。なお、EU(欧州連合)の加盟国(28か国)については、EUとして一括区分。

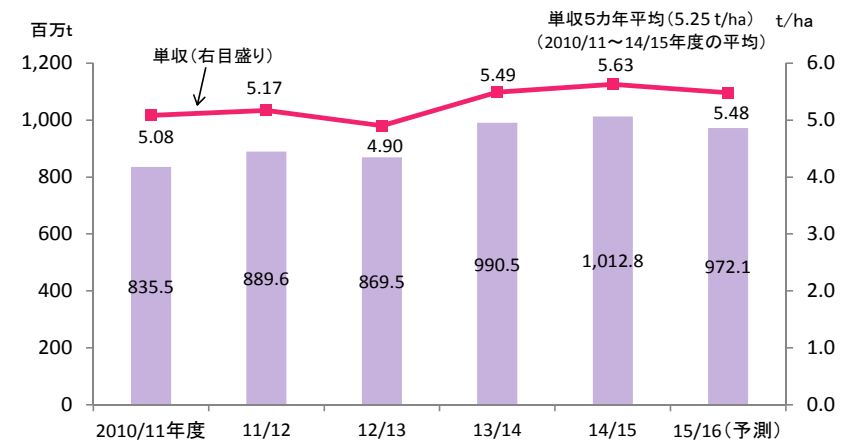
【図2】EU地域における高温状況(図1の参考)



注：黄色～赤になるほど平年値(2002年7月～2012年6月)との差が大きく高温傾向を表す。

資料：JAXA提供「JAXA Satellite Monitoring of Agrometeorological Information (JASMAI) 農業気象情報衛星モニタリング」を基に農林水産省で作成。

【図3】世界のとうもろこしの生産量の推移



資料：米国農務省「P S & D」(2016.4)を基に農林水産省にて作成

【参考】とうもろこし生産主要国別生産量(2015/16年度予測)

国名	生産量	対前年度増減率	生産量シェア	単収	対単収5か年平均比
	百万トン	%	%	t/ha	%
世界計	972.1	△4.0	100.0	5.48	104.4
米国	345.5	△4.3	35.5	10.57	112.0
中国	224.6	4.1	23.1	5.89	101.9
ブラジル	84.0	△1.2	8.6	5.19	105.6
E U	57.5	△23.9	5.9	6.23	88.5
アルゼンチン	28.0	△2.4	2.9	8.00	113.8
ウクライナ	23.3	△18.0	2.4	5.71	101.0
インド	21.0	△13.1	2.2	2.33	90.1

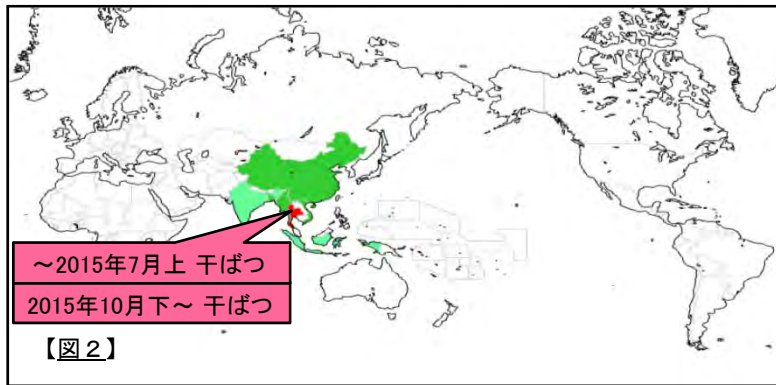
資料：米国農務省「P S & D」(2016.4)を基に農林水産省にて作成

注：EU(欧州連合)は28加盟国をEUとして一括区分。

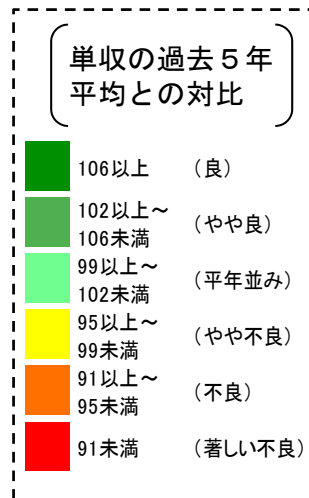
Ⅱ-3-(3) 米の作柄見通し(単収過去5か年平均との対比)と気象の影響

2015/16年度(2016年4月時点)の【米】の世界全体の作柄見通しについては、やや良の見込み。主要生産国を見ると、中国、バングラデシュ、ベトナム及びミャンマーはやや良、インド及びインドネシアは平年並み、タイは著しい不良の見込み。なお、世界全体の生産量を見ると4億71百万トンで、前年度に比べ8.2百万トン(△1.7%)減少する見込み。

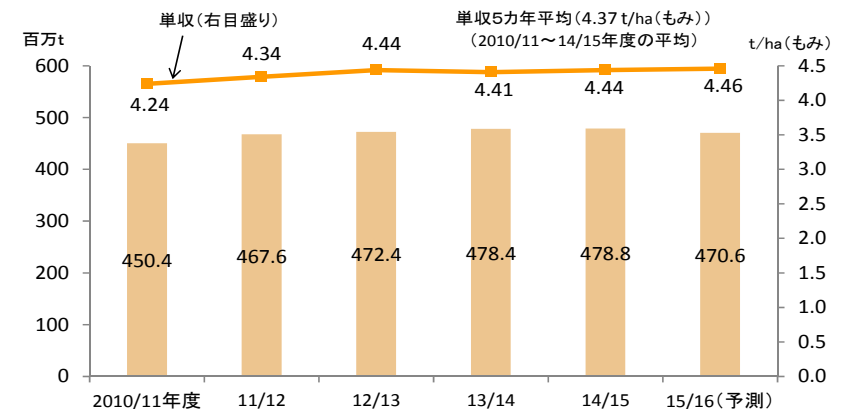
【図1】米の作柄



資料：米国農務省「P S & D」(2016.4)を基に農林水産省にて作成
注：主要生産国は、各品目別に生産量の過去3年平均の上位7カ国を対象(2015年5月時点)。作柄概況は過去5か年間の単収の平均に対する2015/16年度の単収(見込み)の比較により区分。

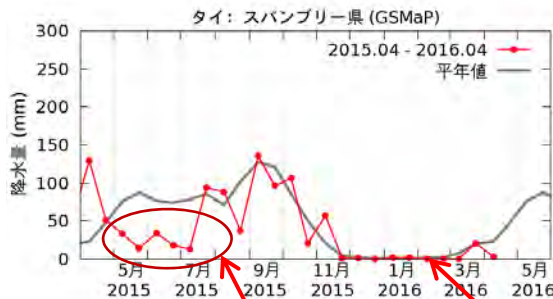


【図3】世界の米の生産量の推移

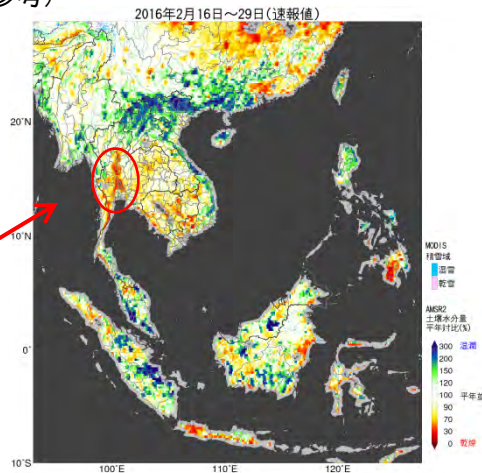


資料：米国農務省「P S & D」(2016.4)を基に農林水産省にて作成

【図2】タイの降水量・乾燥状況(図1の参考)



雨季・乾季作の生育期間中において水不足が作付地域に影響。



注：黄色～赤になるほど平年値(2002年7月～2011年6月)と比べ乾燥していることを表す。

【参考】米生産主要国別生産量(2015/16年度予測)

国名	生産量 百万トン	対前年度 増減率 %	生産量 シェア %	単収 t/ha(もみ)	対単収5か 年平均対比 %
世界計	470.6	△1.7	100.0	4.46	102.1
中国	145.8	0.8	31.0	6.89	102.7
インド	103.0	△2.4	21.9	3.61	100.8
インドネシア	35.3	△0.7	7.5	4.77	101.2
バングラデシュ	34.5	0.0	7.3	4.40	102.3
ベトナム	28.1	△0.2	6.0	5.85	103.3
タイ	15.8	△15.7	3.4	2.53	89.5
ミャンマー	12.2	△3.2	2.6	2.76	105.7

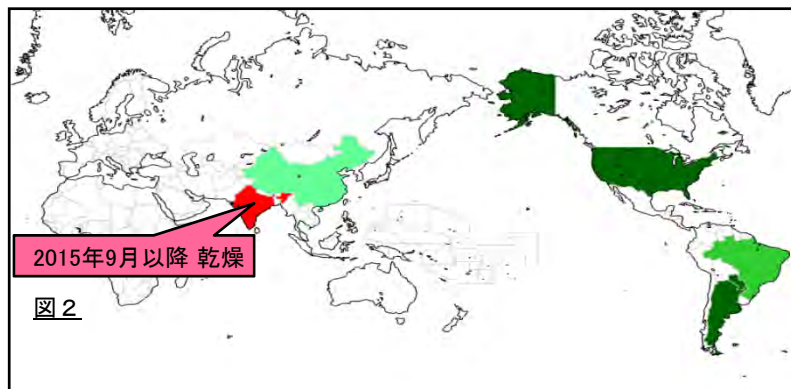
資料：米国農務省「P S & D」(2016.4)を基に農林水産省にて作成

資料：JAXA提供「JAXA Satellite Monitoring of Agrometeorological Information (JASMAI) 農業気象情報衛星モニタリング」を基に農林水産省で作成。

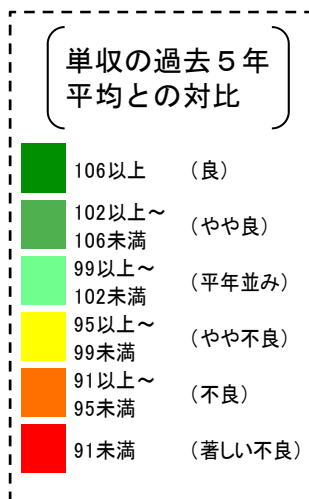
Ⅱ-3-(4) 大豆の作柄見通し(単収過去5か年平均との対比)と気象の影響

2015/16年度(2016年4月時点)の【大豆】の世界全体の作柄見通しについては、良の見込み。主要生産国を見ると、米国、アルゼンチン及びパラグアイは良、ブラジルはやや良、中国は平年並み、インドは著しい不良の見込み。なお、生産量は3億20百万トンで、前年度に比べ0.6百万トン(0.2%)増加する見込み。

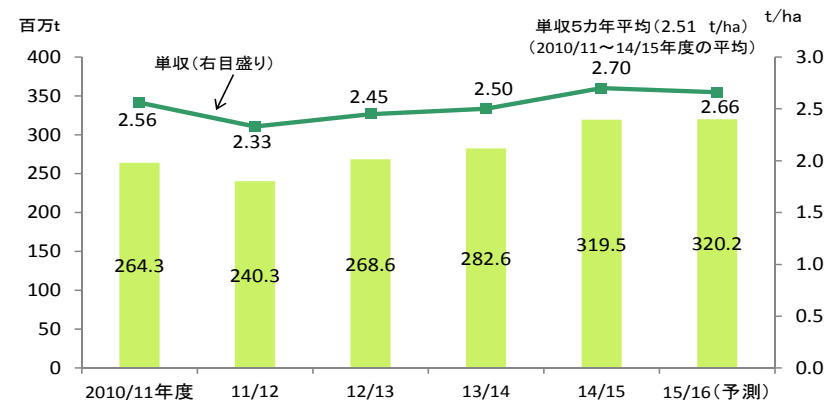
【図1】大豆の作柄



資料：米国農務省「P S & D」(2016.4)を基に農林水産省にて作成
注：主要生産国は、各品目別に生産量の過去3年平均の上位6カ国を対象(2015年5月時点)。作柄概況は過去5か年間の単収の平均に対する2015/16年度の単収(見込み)の比較により区分。

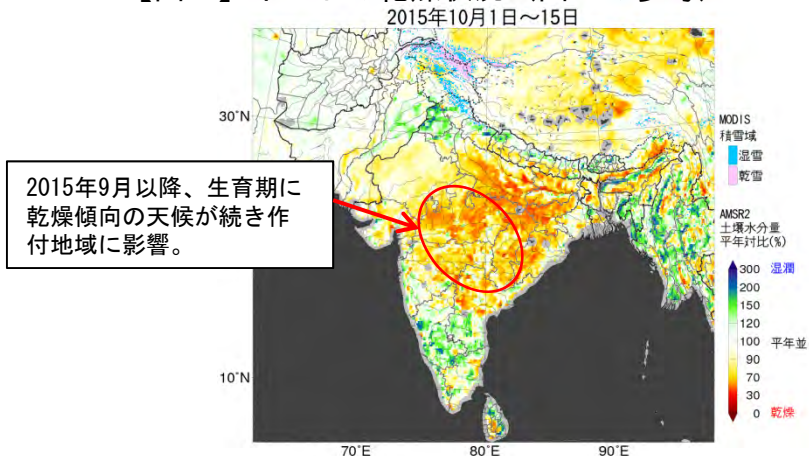


【図3】世界の大豆の生産量の推移



資料：米国農務省「P S & D」(2016.4)を基に農林水産省にて作成

【図2】インドの乾燥状況(図1の参考)



注：黄色～赤になるほど平年値(2002年7月～2011年6月)と比べ乾燥していることを表す。
資料：JAXA提供「JAXA Satellite Monitoring of Agrometeorological Information (JASMAI) 農業気象情報衛星モニタリング」を基に農林水産省で作成。

【参考】大豆生産主要国別生産量(2015/16年度予測)

国名	生産量 百万トン	対前年度 増減率 %	生産量 シェア %	単収 t/ha	対単収5か 年平均比 %
世界計	320.2	0.2	100.0	2.66	106.0
米国	106.9	0.1	33.4	3.23	110.7
ブラジル	100.0	2.9	31.2	3.00	102.5
アルゼンチン	59.0	△3.9	18.4	2.99	111.6
中国	11.8	△2.9	3.7	1.80	100.2
パラグアイ	8.8	8.6	2.7	2.59	112.9
インド	7.5	△13.8	2.3	0.66	67.2

資料：米国農務省「P S & D」(2016.4)を基に農林水産省にて作成

※ 気象庁は、2016年4月11日付けのエルニーニョ監視速報(No. 283)で、「2014年夏に発生したエルニーニョ現象は弱まりつつある。エルニーニョ現象は夏のはじめには終息している可能性が高い。その後、平常の状態が続く可能性もあるが、夏の間にラニーニャ現象が発生する可能性の方がより高い。」と発表した。